

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302644		
法人名	医療法人 恕心会		
事業所名	グループホームぶなの森 2F		
所在地	福島県郡山市八山田6丁目45		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年12月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の介護理念を基に、年度ごとにフロア目標を立案し、それを念頭に各職員が入居者様それぞれの思いに気付けるようにしながらケアに努めている。日々変わる入居者様の状況把握に努め、必要に応じて申し送りノートも活用しながら情報の共有化を図っている。また、身体拘束適正委員会を設置、改めて不適切ケアが虐待に繋がる可能性と捉え、入居者様の思いを尊重し出来る限り自由に自己決定が出来るよう、声掛けや見守り、介助に配慮した支援を目指している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念に基づいたユニット目標を常に意識できるよう事務所と廊下に掲示している。今年度は入居者様お一人お一人の個性を尊重したケアを目標に掲げ実践出来るように努めている。また、年度末には目標を振り返り、半背に転を踏まえて新たな目標を立案している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で町内、地域の催し物が中止になり感染予防の観点から外部、地域の方との交流の機会は殆ど無くなっているのが現状。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為中学生の職場体験実施もなく、外部からのボランティアや地域の方々との交流の機会も殆ど無く活かしているとは言えない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為開催は中止、議事録作成し入居者様のヒヤリ・事故報告、行事や事業所の運営状況を郵送させて頂き意見やアドバイスを頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は休止中であるが広報誌を定期的に発行送付し情報提供していた。また、こちらも現在中止となっている介護相談員の受け入れを行い助言を頂き情報交換していた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	感染予防の観点から全体での研修・会議は行っていない。不適切なケアが身体拘束や虐待に繋がりがかねないことを理解する為、日々の申し送りやカンファレンスの際に意見交換し共有化出来た。転落の危険性がある階段への戸には音の出るセンサーを設置してはいるが、希望があれば階の移動等は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わない取り組み同様、不適切ケアが身体拘束・虐待に繋がる可能性があると感じ、職員全体で意見交換や注意すべき点等を話し合っている。入居者様の立場で考え、言葉かけや振舞いなど日々、配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度については学ぶ機会はなかったが、資料などを用いて周知を図っている。また、職員が各々理解を深められるように自主学習に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人・ご家族様に対して丁寧な説明を心掛けている。契約制度の変更や加算の変更、料金の変更等の際は口頭・文書での説明を行っている。ご本人の状態によりご家族様が主となる説明となることもあるが、あくまで主体はご本人として、不安や疑問が解消されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の行動や会話を記録に残し、要望や思いを把握し対応、改善に努めている。また、入り口に意見箱を設置してはいるが入居者様・ご家族様からの投書は皆無に等しい為、面会時や電話連絡の際に要望や意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを行い、各職員が意見や提案を述べる機会を設けている。また、代表者・管理者は随時職員の個別面談にも対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議は感染防止の為行っていないが、カンファレンスの際には代表者も出席し状況把握に努めている。職員が向上心を持ち働ける様アドバイス等行っている。また、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度毎に研修計画を立て、各々の経験や実態にあわせ研修に参加しているが、コロナウイルス感染予防の為研修自体が縮小・中止となったり、オンライン限定になったりと満足に研修の機会は受けられなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時には他施設職員との意見交換やグループワークでのコミュニケーションを図っていた。コロナ禍で研修が軒並み中止となり以前程の外部研修参加水準には達していない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査、入居後の記録や24時間シートを活用した情報を基にこまめなコミュニケーションをとり心身状態の観察を行い、他入居者様や職員と安心して共同生活を送る事が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階から実態調査や入居時等その時々で生じるご家族様の意見・要望を傾聴し安心に繋げられ、信頼関係が築ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為、会話や発言の中から意向を汲みとれるような記録を行い、個々に見合ったサービスと支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の盛り付けや食材の下処理、食器拭きや洗濯物を置く作業等、出来ることを行って頂きながら、互いに協力し合い共に支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告として写真を貼ったお手紙を送付している。コロナ禍の為行事の規模は縮小しご家族様の参加は見送っている。面会は自粛して頂いているが、来所された際には扉越しでの面会をして頂いている。外来受診の歳には基本ご家族様に協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為馴染みの方に合ったり外出する事は自粛しているが、いつでも希望時には電話等をして頂き、会話を楽しんで頂いている。出来る限り関係が途切れない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様各々の関係性に配慮しながらトラブルを未然に防止する働きかけを行っている。また、一緒に作業を行う際にも役割を分担しつつも互いに気を配りながら行って頂ける様職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様とは繋がりが少なくなるがご家族様より連絡を頂いたり、コロナ禍以前は来所された際にお話をしたり相談があった際には支援を行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や要望を引き出せるよう会話の中からのヒントを逃さないよう努めている。定期的なカンファレンスでも職員間で気付いたこと等を共有化しご本人主体のケアに繋がられるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査や担当ケアマネージャー、ご家族様からの情報を基に、ご本人との会話の中で人柄やこれまでの生活を伺い、サービスに繋がられるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活状況を記録し心身状態に変化があった際には職員同士でカンファレンス等で情報共有するとともに、申し送りノートを活用して周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご本人の困っている事や要望、ご家族様からの要望・伺った事を話し合い次回更新の介護計画に反映している。また、毎月担当者がモニタリングを行い変化があれば介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し情報を共有している。また、申し送りノートも活用しながらカンファレンスでの決定に繋げている。必要性があるものは計画へ反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様のその時に応じた個別ケアを行っている。心身状況では介護職員のみならず看護職員、主治医等含め、他機関とも連携しながら柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為施設行事も縮小しボランティアを活用する事も無く、以前は参加し入居者様が歌を披露していた地域の文化祭も中止になり地域資源を活用出来ているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	どの医療機関をかかりつけ医とするか、ご本人、ご家族様に選択して頂いている。全ての入居者様が同法人のクリニックをかかりつけ医としており、月1回の往診を受けられている。他医療機関の受診はご家族様対応をお願いしているが、やむを得ない際は職員が対応し受診結果等を電話連絡や近況報告時にお伝えし、共有化している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面の変化時は速やかに報連相を行い助言や指示を受けている。また、常日頃より気にかかる所を相談し入居者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に入居者様が適切な医療、看護を受けられるように適切な情報提供に努めている。口頭・文書で連絡を行い、入院中は可能であれば面会に伺い病院関係者から経過、状況の情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を口頭、書面にて行っており、同意を頂いている。看取りの段階になった際は適宜ケアプランの見直しを行い、穏やかな終末期を迎えられるよう努めている。また、ご家族様、看護職員、主治医、医療機関とも密に連絡を取り合い、協力を得ながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の個別マニュアルが作成しており、適宜見直し変更時の周知を行っている。また、看護職員や母体のクリニックに連絡を取り指示を受け対応している。受診が必要な場合等はご家族様にも連絡を行っている。以前は消防署の救命講習等受講していたが現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含め定期的に避難訓練を実施している。コロナ禍の為地域の方へ訓練の協力依頼は出せていない。入居者様の避難以外に、消防設備の方立ち合いの際にスプリンクラー、消火器・警報装置の取り扱いについての説明も受けている。停電に対する備えについて法人と方針を決める事が今後の課題と考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況によっては砕けた会話もあるが、入居者様の個々の人格の尊重を念頭に置いた声かけを行っている。常に挨拶や感謝の気持ちを声に出し伝えるよう努めている。プライバシーについてもトイレの際は戸をしっかりと閉め、着替えの際は居室窓のカーテンを閉める等都度注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることなく日常生活の様々な場面で選択肢を用意し入居者様が自己決定できるような声掛け、場面づくりを心掛けている。また、意見を言う事が難しい入居者様には、表情等から思いを汲みとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人お一人の趣味や生活のペースを把握し、楽しみのある生活が送れるよう支援している。感染予防の観点から、買い物に出掛ける事は難しい為希望をお伺いし、職員が代理購入し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗顔、整髪、髭剃り等の声掛けやご自分では難しい方にはホットタオルを使用しての整容、眼脂を拭き取る等介助を行っている。コロナ禍の為散髪は職員が行っている。常に清潔を心がけ、季節や行事等その場面にあった服装のアドバイスや声掛け、準備等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	感染予防の為食材の買い物に出掛けられていない。ドレッシングは手作りしたり、盛り付け作業をして頂く際には味見もして頂き、片付けの食器拭き等も一緒に行っている。ミキサー食等介助で召しあがって頂く際には材料やメニュー名を伝えながら召しあがって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量の把握は徹底し、記録している。刻み食やミキサー食等、水分には必要時トロミを使用する等個々に応じた形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要な方には仕上げ磨きの実施や、自力で困難な方やお一人お一人に合わせて口腔スポンジや舌ブラシを使用し介助をする事で口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じて外部歯科衛生士による口腔ケアやリハビリを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から排泄状況を把握し定期的なトイレの声掛けや個々に合わせてリハビリパンツやパット類の使用等をカンファレンスで検討している。状態に合わせてリハビリパンツから綿パンツに切り替えるなど極力自立に向けた排泄を行えるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に一人お一人に合わせた目安を基に水分を摂って頂いている。また、適度な運動も取り入れ声掛け、実施している。カスピ海ヨーグルトや牛乳にオリゴ糖を入れ、適宜摂取して頂いている。必要に応じて下剤での排便調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の入居者様の体調や意思をお聞きし、バイタルを確認した上で入浴の声掛けをしている。拒まれる方には無理強いせず、時間を置いたり別な職員が声をかけ対応している。又、体調不良や入浴が困難な入居者様には適宜着替えや清拭、足浴を行う等清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間共に好きな時間に休んで頂けるよう支援している。ご本人の体調や疲労感に応じ午睡の時間も設けている。ソファーを利用したり居室ベッドには馴染みの毛布等を準備し、お一人お一人に合わせた対応が出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様別の服薬ファイルがあり全職員が把握出来るようになっている。与薬の際には声を掛け合い、誤薬の無いように努めている。下剤内服時には申し送り時と与薬時に再度確認を行い与薬している。誤薬があった場合には事故報告書に記載し周知、再発予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週刊・月刊誌を欠かさず読まれている入居者様には職員が代理購入し届けている。また、リビングのカーテン開閉や食事前後のテーブル拭き、食器拭き、洗濯物たたみ等役割を持って頂く事で日々の生活が生き活きたものとなるよう働きかけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為以前のように外出や買い物に出かけられていない。短時間のドライブや近所の公園への散歩等は希望をお聞きしながら出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族様の希望でお小遣いはグループホームでの管理が基本となっている。コロナ感染予防の為一緒に買い物には出掛けられていないが、購入希望の物がある際はご本人と一緒に残金を確認したり、小遣いの範囲内に収めるよう話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話のご希望があればご家族様やご友人が可能な限りお繋ぎしている。また、手紙を書いて近況報告と一緒にご家族様にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には入居者様が作成した作品や、季節に合わせた壁画等を飾っている。また、日常生活や行事の写真を掲示しあたたかみのある雰囲気作りを行っている。2Fはフロアの温度が上がりやすい為、室温調整は小まめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置く事で、自席の他に寛げる場所の幅を持たせている。時には椅子を移動し、別テーブルに集まって会話をしたり、歌ったりすることで楽しみを持てる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人・ご家族様と相談、工夫しながら使い慣れた家具や寝具思い出の品等を配置する事で安心して過ごせるような居室を目指している。何も無い方が落ち着かれる入居者様には、吊戸棚に収納し、極力意向に合わせて物を置かないようにする等対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは場所が分かるように戸に「トイレ」「便所」等と貼る事でわかりやすくなるよう対応している。また、居室にも表札を貼っている。入口の戸には音の出る飾りをつける事で、お一人で階段へ行かれての転落防止等に努めている。		